

公的医療機関の充実・地域医療の維持・存続を求める意見書

小千谷市の地域医療のセンター的機能・役割を担っている J A 新潟厚生連小千谷総合病院は平成 29 年 4 月に公益財団法人小千谷総合病院と当時の新潟県厚生連魚沼病院との統合により、病床 300 床で開設しその後本年 4 月には医療病床数 199 床、介護医療院 80 床を開設するなど地域に根差した医療事業を展開しております。

また、前述いたしました病院統合建設に際しては小千谷市から建設・運営費として 25 億円を助成することに当市議会としても全会一致で同意し予算執行がされております。

第 8 次新潟県地域保健医療計画では、本県における良質かつ適切な保健医療サービスの実現を図るため、今後の保健医療施策の具体的な目標と方向を示すものとされ、将来にわたり住み慣れた地域で安心して保健医療サービスが受けられる体制の構築や、限られた資源を有効に活用していくため、地域の保健医療関係者、市町村等との連携の下、「5 疾病・6 事業及び在宅医療等」のそれぞれに係る医療連携体制の構築を図り、関係機関同士の機能分担と連携強化を進め、切れ目のない医療提供体制を構築するとしております。

その具体的な取り組みとして、本年 9 月に県病院局と J A 新潟厚生連の両者が正式に協議の場を初めて設けたことは互いの現況を踏まえ、医療再編などを見据えた中での中長期的な経営改善に向けた議論を本格化させたい狙いと推察いたします。

地域医療は、この地で生活する地域住民のためになくてはならない大切な生活支援活動であり、地域医療の充実健康に暮らせる街づくりの根幹です。

報道発表や小千谷市議会民生産業委員会での聞き取り調査においても J A 新潟厚生連小千谷総合病院の経営は厳しく前途多難な話しか聞こえてきません。県財政も厳しい状況が続いているとは存じますが、「第 2 次新潟県医師確保計画(前期)」に則り、医師不足や地域偏在などの諸課題に対応いただき、県民の大切な命を守るため、そして小千谷市民が健康不安な生活に陥らないため、経営改善によるコストカットが厚生連の職員離れにつながらないように、是非とも J A 新潟厚生連小千谷総合病院の医療の質の充実とともに医療従事者の確保を下記、小千谷市議会として求めます。

1. 地域医療の維持・確保のため、産科、小児科をはじめとする医師・看護師の不足や地域間・診療科間の偏在を解消し、計画的な医師等の育成・確保及び定着を図ること。
2. 緊急対策的な財政措置を早急に講ずること。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出します。

令和6年11月29日

小千谷市議会議長 上村行雄

(提出先)

新潟県知事